4年間で、“自学”の精神を身につけてほしい

看護学科 学科長　村上 生美 先生

森ノ宮医療大学に新しく看護学科が誕生し、今春、第1期生88人を迎えました。
新しくスタートした看護学科・学科長の村上生美先生に、学科長としての抱負をうかがいました。

— まず、自己紹介をかねて、先生の経歴をお聞かせください。

村上：大阪大学医学部附属看護学校を卒業後、実家の広島県福山市で看護師として働きはじめました。そしてちょうど27歳のときに、恩師から看護師を育成する側に、と声をかけていただいて、再び大阪に戻りました。以来約38年、一貫して教育現場をフィールドに働いてきました。

— 初めから教員を目指されていたわけではなかったのですね。

村上：そうです。恩師から声がかからなければ、ずっと看護師として働くつもりでした。それで改めて教員養成講習会に参加し、看護学や教育学を勉強しました。当時は「看護は学問か」とさえ言われていた時代でしたから、大変でした。看護学の場合、教員は看護のライセンスを持っているだけではだめで、臨床経験があって実際に看護ができる者でなければならず、私も27歳までベッドサイドで患者さんのケアを行っていたのが活かされました。

— 教員歴38年。その間、時代の変化を感じられたことはありますか?

村上：私の学生時代や、教育に携わりだした頃は、どちらかというと教育は注入的、一方通行的な傾向が強かったと思います。でも実際に、教育に携わってみると、一方通行では教育は成り立たないということがわかってきました。

看護学科は座学中心の学問と違い、臨地実習も多く、実践を通して看護の価値観を獲得していきます。したがって、教員は実習施設の指導者と連携を密にしなければなりません。実際に病院について行って、学生がケアする場にいると、患者さんの反応や学生たちの行動がわかって、これは次の学習につながるなと思う面などが見えてきます。学生と共に学ぶところが大きいというのが実感です。

— 学生さんたちは変化してきましたか?

村上：平成生まれ等、云々されたりもしているようですが、大差ないのではないでしょうか。これまで2,000人以上の学生さんを見てきましたが、3、4年生になって地域に出て臨地実習をしていると皆、精神的に大きく変化してきます。患者さんに接したり、その場で先生方からアドバイスをもらったり、卒業論文を書いたりすることで、一気に大人になってくる。それに、看護を目指す者として、同じ学問をやってきているという共通の連帯感も出てきます。

— 医療現場も変化し、看護師さんたちのストレスも大きいと聞きますが。

村上：現代は、医療技術はもちろん、IT化をはじめ急速なスピードで現場は変化しています。それに高齢化も進み、医療費の面で入院日数が短くなって、入院されたら1、2週間で退院されるという状況です。そのなかでいろんなことが凝縮されて起こっている。それに対応していくのは大変です。まして看護師として働き続けていこうとしたら精神的な強さだけでは乗り越えていけない部分もあります。

それで、大学4年間で、自分で勉強する仕方＝“自学”の方法を学んで卒業してほしいと思っています。仕事に就いたときに、疑問に思ったことを、先輩たちに教えてもらうだけでなく、自分で勉強して解決できれば、ストレスも少しは緩和できるのではないかなと思っているのです。

— 先生のモットーを教えてください。

村上：大学は高等教育機関ではありますが、高度な最先端の知識や技術ばかりを学ぶところという意味ではなくて、看護の基盤、看護職としてのポリシーをはじめ、基本を着実に身につける場と認識しています。

看護学は教育制度としてかなり整備されており、大学卒業後の修士課程、その後に3年間の博士課程があり、高等教育として完成しています。又、専門看護師や認定看護師等様々な領域でコースが用意されていて、多くの可能性が開かれているのです。その前の4年間はきらびやかで高度な技術ではなく、基礎的なものをきちんと身につけて、どの扉を開くか選択できる素地を作っておくことです。

— 先生のお話を聞いていると、看護学科の未来は明るい、ですね。

村上：大学としての責任は、将来伸びてくれる学生を世の中に送り出すということですから、卒業の暁に看護を必要としている人や家族にキチンと向き合える看護職を輩出すること。今、スタートしたばかりですが、教師が一丸となってコツコツ積みあげることによって、森ノ宮の看護学科のブランドバリューが高くなっていくと思います。責任も重大ですが、楽しみです。

プロフィール

大阪大学医学部附属看護学校卒業後、看護士として国立福山病院で6年間勤務後、教員として看護師育成にあたり、2010年3月まで岡山県立大学教授。博士（工学）。
研究領域：「ケア（看護技術）の科学的検証」、「コミュニケーションの研究」

看護学科の先生方

担当領域	氏名	職位
基礎看護学	村上　生美	教授
	伊津美孝子	准教授
	住田　陽子	講師
成人・精神看護学	佐伯　恵子	教授
	吉村弥須子	教授
	来栖　清美	講師
	西村　千年	助教
	平川　憲子	助教

担当領域	氏名	職位
成人・精神看護学	吉川　有葵	助教
	上田　佳奈	助手
母性・小児看護学	吉川　彰二	教授
	酒井ひろ子	准教授
	佐藤　寿哲	助手
地域・老年看護学	大巻　悦子	教授
	山田　純子	講師